



新座中だより

令和3年度11月



〒352-0011 埼玉県新座市野火止二丁目4番1号
電話(048)478-3668 FAX(048)482-0131
新座市立新座中学校

学校教育目標

強く 明るく 考える

努力の壺

校長 高橋 利明

「努力の壺」という言葉があります。人が何か新しい事に挑戦する時、神様から「壺」を貰うという話です。努力すると「壺」にその努力が溜まっていきます。しかし、人それぞれに大きさは違い、どのぐらいの大きさか、どのぐらい努力が入るのかはわかりませんが、努力を「壺」に入れ続け、溢れた時に新しい事が出来るようになるのです。

これは人の可能性が努力することにより、結果として現れるプロセスを「努力の壺」に例えたメッセージです。可能性は、ある日突然現れるものではありません。私たち大人にとっては当たり前と認識している事かもしれませんが、行動しないと可能性はずっと可能性のままで終わってしまいます。努力してはじめて、結果という形で手ごたえを感じられるものになることを様々な経験を通して知り、成長の糧として子どもたち自身の心に育みたいと思います。

子どもの作文珠玉集 No.1 作文25選 『子どもを変えた親の一言』（明治図書） 【小学1年生の作文】

「お母さん、ど力のつぼのはなし、またして」「ウンいいよ。こんどはなあに」「さかあがり」「あらあら、まだいっぱいになってなかったのね。ずいぶんおおきいねえ。」と、いいながら、お母さんはいすをひいて、わたしのまえにすわりました。そして、もうなん回もしてくれた、ど力のつぼのはなしを、またゆっくりとはじめました。それは、こんなはなしです。人がなにかをはじめようと

か、いままでできなかったことをやろうと思ったとき、かみさまからど力のつぼをもらいます。そのつぼは、いろんな大きさがあって、人によって、ときには大きいやら小さいのやらいろいろあります。そして、そのつぼは、その人の目には見えないのです。でも、その人がつぼの中にいっしょうけんめい「ど力」を入れていくと、すこしずつたまっていって、いつか「ど力」があふれるとき、つぼの大きさがわかる、というのです。だから、やらずにつぼの中にど力をいれていけば、いつか、かならずできる時がくるのです。わたしは、このはなしが大すきです。

ようちえんのとき、はじめてお母さんからきました。そのときはよこばしごのれんしゅうをしているときでした。それから、一りん車や、てつぼうのまえまわり、とびばこ、竹うま。なんでもがんばってやっていると、お母さんにたのんで、このはなしをしてもらいました。くじけそうになったときでも、このはなしをきいていると、心の中の大きなつぼが見えてくるような気がします。そして、わたしの「ど力」がもうすこしで、あふれそうに見えるのです。だから、またがんばる気持ちになれます。(以下略)

さて、お子さんたちの心の中に、このお話のような壺があるとしたら、その壺は努力であふれているのでしょうか？ 生徒たちも努力の壺の中に、最後まで諦めずに地道に、少しずつ、コツコツと努力を貯めていってくれれば、この上なく嬉しい限りです。